

*** 今日の健康 (1月) ***

< コロナウイルスのワクチン >

現在日本はファイザー、モデルナ、アストラゼネカの3社とコロナウイルスワクチンの輸入契約を結んでいます。ワクチンのタイプ、有効性、接種回数、日本への供給量、保存管理方法を以下の表にしました。

	ファイザー	モデルナ	アストラゼネカ
ワクチンのタイプ	mRNA	mRNA	遺伝子組み換え
有効性	90%	94.5%	95%
接種回数	いずれも2回		
日本への供給量	1億2千万回分 (6000万人分) 2021年6月までに	5千万回分 (2500万人分) 2021年1~6月までに 2000万人分	1億2千万回分 (6000万人分)
保存管理方法	-60度~-80度で最大 半年間 解凍後は2度~8度で 5日間	-20度で最大半年間 解凍後は2度~8度で 30日間	2~8度で保存可能

これらのワクチンの最大の相違点は、ファイザーとモデルナのワクチンは、従来型のワクチンとは異なり、いずれも「mRNA」と呼ばれるウイルスの遺伝物質を使っており、傷みやすく壊れやすいため輸送や保管の際に低温での管理が必要になることです。

アストラゼネカのワクチンはタイプが異なり、遺伝子組み換え技術を使って弱毒化したチンパンジーの風邪ウイルスに、新型コロナウイルスの遺伝情報を組み込んで作っています。

このため、ファイザーやモデルナのワクチンは零下20~70度での保存が必要とされる一方、アストラゼネカのワクチンは普通の冷蔵庫と同じ2~8度で保存できるため扱いやすく、接種を大規模に広めやすいとされています。

今のところ日本での接種計画は、ワクチンを日本政府が購入して、国民への接種は区市町村が主導して行ない、接種希望者は自身の住民票のある区市町村でクーポン券により接種されるようです。自身の希望するワクチンが接種できるかどうかは分かりません。

厚生労働省は12月25日、予防接種に関する専門部会を開き、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を優先的に受けられる対象として、高齢者は65歳以上、持病は慢性の心臓病や腎臓病、体格指数(BMI)が30以上の肥満など14種類とする案を示しました。医療従事者や65歳以上の高齢者に続き、持病のある人の接種は来年4月以降となる見通しです。2021年度中に65歳以上となる高齢者は約3600万人、持病のある人は約820万人と見積もられ、感染すると重症化のリスクが高いため、優先対象となっています。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861
天文台通り多摩信用金庫のななめ裏